

学 校 関 係 者 評 価 報 告 書

愛媛県立北条高等学校

学校番号 (19)

評 価 実 施 日		令和 8 年 2 月 18 (水)	
委員	氏 名	所 属 等	備 考
	梶原 富彦	梶原動物病院長	
	宮内 康輔	北条地区まちづくり協議会事務局長	
	山地 真人	北条ふれあいセンター館長	
	大黒屋貴稔	聖カタリナ大学人間健康福祉学部長	
	田中 匡史	北条浅海郵便局長	欠席
	長野真太郎	北条北中学校長	
	杉野 巻男	元堀江小学校長	
	河崎 元	北条高等学校 P T A 会長	

評 価 ・ 提 言 等	提言等に対する改善方策等
1 今年度の最終評価について (1) 学校生活全般 ・地域行事に生徒が積極的に参加し、生徒たちが地域を活性化してくれている。今後も引き続き地域との関わりを大切にしたい学校づくりを望む。 ・総合学科の良さを生じた、生徒一人一人に応じた教育が行われている。 (2) 学習指導 ・家庭学習時間の減少が課題となっているようだが、学校に残って学習した時間を家庭学習時間に含める等、基準を明確にして生徒へ伝えることで、より正確な実態把握につながるのではないかな。 (3) 進路指導 ・3年次生の「総合研究」全体発表会ほどの発表者も大変丁寧に研究を重ねており、見応えがあった。保護者が質問する機会があってもよいのではないかな。 (4) 生徒指導 ・登校時、学校周辺の一方通行の道路を高校生や中学生が逆走しているところを見かけることがある。気を付けてほしい。 (5) 特別活動 ・吹奏楽部が地域の活動に積極的に参加してくれており、たのしい。地域の中学校の吹奏楽部との連携も進んでいる。今後も継続してほしい。 (6) 人権教育 ・生徒情報の共有について、教職員間で一層の意思疎通を図ってほしい。 2 学校運営への提言 ・生成 A I を教育活動に生かしていくべきではないかな。	・今後も総合研究などを通じて、地域活性化につながる様々な活動を行っていききたい。 ・少人数教育の利点を生かし、今後も生徒一人一人の個性に応じた教育活動を実践していききたい。 ・家庭学習時間の実態把握をより正確に進めていくとともに、家庭学習の意義について繰り返し指導して基礎学力の向上に努めたい。 ・「総合研究」は総合学科の学びの集大成であり今後も内容の充実を図りたい。また、施設の借用時間の関係もあるが、生徒以外の観覧者からの質問についても検討したい。 ・交通規則の遵守について、あらゆる機会を通じて指導し、安全・安心な登下校に努めたい。 ・愛媛マラソンボランティアでは、今年も吹奏楽部が北条北中・南中とともに合同演奏を行った。またそれ以外に約50名の生徒がボランティアに参加した。今後も地域の活動に積極的に貢献し、その情報を発信していききたい。 ・生徒の情報交換・共有を教職員が密に行う体制づくりに今後とも努めていききたい。 ・生成 A I の利活用は、これからの社会を生きる生徒たちにとって不可欠なスキルになると認識している。今後は、国や県のガイドラインを遵守しつつ、どのような場面で活用すれば生徒の学びや探究活動をより深められるか、検討していききたい。